

福山市



【A. 取り組みの全体像】

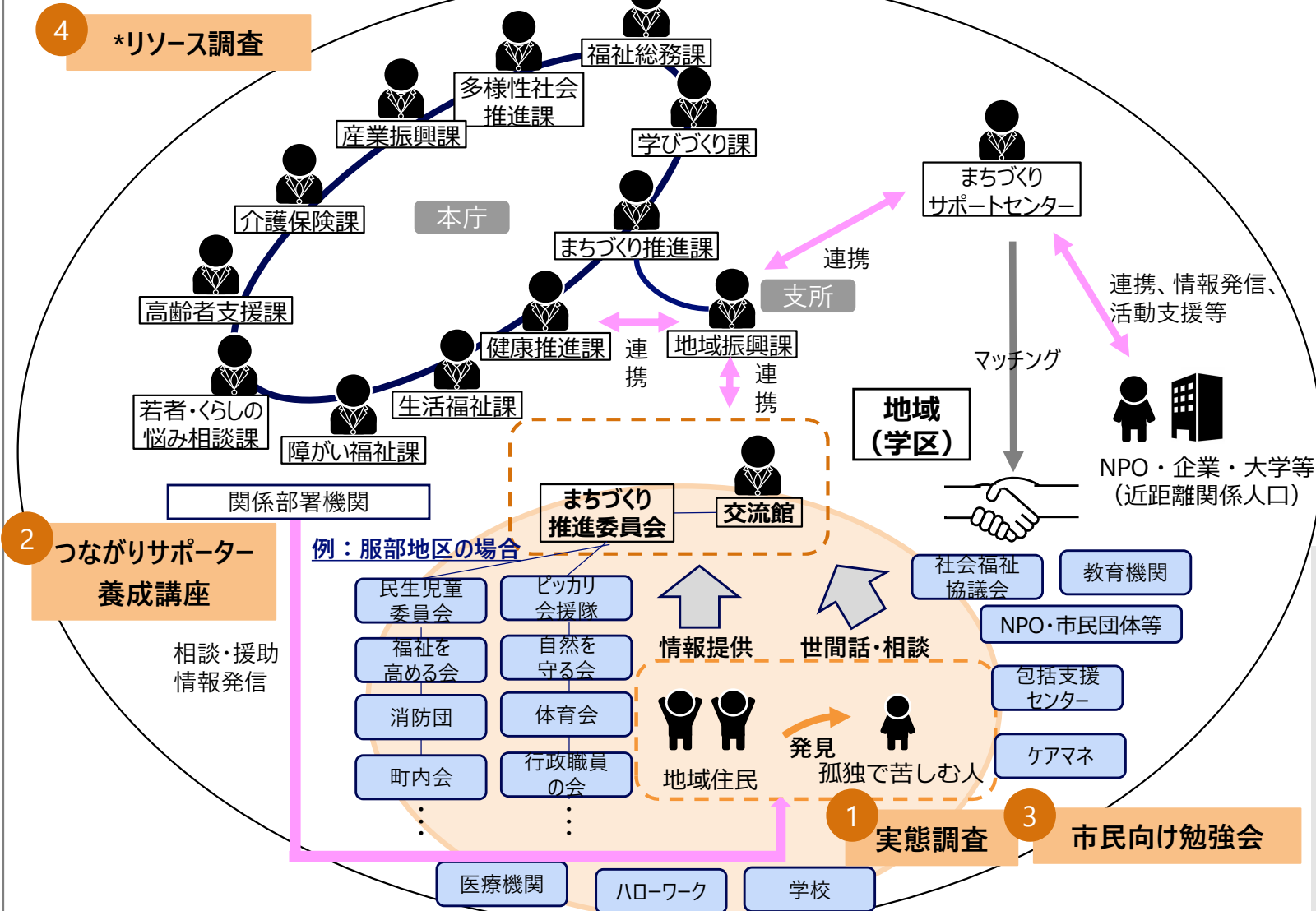
1.自治体の概要

</

【B.連携PFイメージ】

5. 連携PFのイメージ図

*リソース：地域で活動している団体を地域資源として呼称



試行的事業

1	実態調査 ▶市民の孤独・孤立の実態把握 ▶市民が望む支援の在り方の把握
2	つながりサポーター養成講座 ▶市職員、市民（子ども）を対象とした、地域におけるサポート人材の育成
3	市民向け勉強会 ▶孤独・孤立の普及・啓発 ▶ひきこもりや不登校の方に対する支援の提示
4	リソース調査 ▶福祉に限らない、孤独・孤立という社会課題への対応に関心のある団体の発掘 ▶地域リソースの一覧化

「まちづくり推進委員会」とは...

- 福山市内の小学校区毎に設置されている自治組織であり、地域住民や地域団体で構成されている。

「交流館」とは...

- まちづくり推進委員会の事務機能を担い、小学校区毎に設置された旧公民館(市内に約90の交流館が存在)。
- 交流館の中に相談員（市職員）が常駐し、住民の相談を受け付ける。
- 勉強スペース、会議室も整備しており、居場所としての機能も果たしている。

【C.試行的事業】_一覧

6. 本年度に取り組む試行的事業の概要

試行的事業の ポイント・工夫

- PF形成に向けて“福祉”分野以外の分野を巻き込み、社会全体で支え合える将来に向けた取組の検討
- 市内の実態把握とそれに基づいた方針・PF機能の検討

事業名称	事業内容	目的／期待効果・KPI	実施時期	発注先（予算）
1 実態調査	【調査対象及び調査対象者数】 ・ 満16歳以上の個人3,000名 【調査実施期間】 ・ 令和6年12月9日（月）～令和6年12月27日（金） 【調査方法】 ・ 16～39歳については、はがきにQRコードを掲載して郵送し、オンライン上で回収 ・ その他の年代については、アンケート調査票を郵送により配布し、オンライン上または返信用封筒により回収 【回収率】 ・ 有効回答905件（回収率：30.2%）	・ 性年代毎の特徴を把握 ・ 市民の求める孤独・孤立対策について把握 成果検証項目 ➢ 孤独・孤立を感じている人の割合（低減をめざす） ➢ アンケート結果やそれをもとに新設された支援メニューの数	✓ 令和6年12月	株式会社 ウエルウェル （約160万円）
2 つながり サポーター 養成講座	・ 職員、中学生の2種類の対象に対して、それぞれつながりサポーター養成講座を実施した。 ・ 受講者には講座受講後にアンケートを実施し、孤独・孤立への関心の高まりや、今後の意向（サポートの実施、講座内容の他の方への推奨）について把握した。	・ 声を上げやすい、かけやすい社会の構築に向けて、孤独・孤立の問題について知識を身につけ、身の回りの人に関心をもち、できる範囲で困っている人をサポートする人材の育成 成果検証項目 ➢ 養成講座への参加人数：福山市役所職員等45名、福山市立城北中学校生徒222名 ➢ 職員向けアンケートにて、「今回の講座の内容を、他の職員や業務でかわりのある方にも共有しようと思う」と回答した人が98%。	✓ 令和7年1～2月	職員用講座の講師派遣費、受講証印刷費用 （約4.5万円）

【C.試行的事業】_一覧

6. 本年度に取り組む試行的事業の概要

試行的事業の ポイント・工夫

- PF形成に向けて“福祉”分野以外の分野を巻き込み、社会全体で支え合える将来に向けた取組の検討
- 市内の実態把握とそれに基づいた方針・PF機能の検討

事業名称	事業内容	目的／期待効果・KPI	実施時期	発注先（予算）
3 市民向け勉強会	・「ふくやま・ヤングサポートネットワーク研修会」として、主にひきこもりや不登校の方やその家族を対象に子ども・若者の可能性を拓くために疑問や悩みに対する一助になることを目的として開催。 ・比治山大学非常勤講師・広島城北学園アドバイザーの和田晋氏を講師として、不登校やひきこもり事例を中心にその理解方法・関わり方をテーマに講演を行っていただくことで、孤独・孤立の社会課題としての普及・啓発を行った。 ・また、ひきこもり支援、学習支援、就職支援のNPO法人等のブースを設け、支援団体の活動紹介や個別相談を実施した。	・市民に孤独・孤立という社会課題に関心をもってもらうこと ・主にひきこもりや不登校の方、その家族に支援の多様な在り方を知ってもらうこと 成果検証項目 ➢ 参加者96名（青少年育成員、民間団体等の支援者、自治体関係者、ひきこもり等の当事者やご家族） ➢ アンケートにて、「講演内容が参考になった」「支援団体活動紹介が参考になった」と回答する人が9割以上	✓ 令和6年11月23日（土・祝）	-
4 リソース調査	【調査対象及び調査対象者数】 ・市内の約100団体（NPO法人、社会福祉法人、一般社団法人等） 【調査事項】 活動内容、人とのつながりや孤独・孤立に関連する取組の有無、PFへの参画意向等 【調査方法】 WEB形式で回答（発出は郵送・メールの併用）	・市内における課題・ニーズの実態把握 ・市内で孤独・孤立に関する取組で連携し得る支援団体の掘り起こし・巻き込み 成果検証項目 ➢ 孤独・孤立に関する取組を行う支援団体の特定 ➢ PFへの参画意欲がありそうな支援団体の発掘	✓ 令和7年3月	-

7. 次年度以降に向けた事業等の案

※PDCAサイクルに照らして次年度以降に取り組んでいく事業イメージ（あれば）を例挙

- ・ つながりサポーター養成講座の継続実施
- ・ PFにおける連携強化（会議体開催による意見交換・情報共有）
- ・ 庁内の関係課が実施している孤独・孤立に関する講座・講演会等を集約して、連続講座等の実施

8. 孤独・孤立対策を公表した際の反響

- ・ 本事業期間では、特別に何か公表は実施していないものの、広報「ふくやま」2月号で孤独・孤立に関する記事（本市の孤独・孤立対策等）を掲載した。
- ・ つながりサポーター養成講座（市職員向け）の参加者から、継続して実施してほしいという意見が出た。（主に交流館主事より）

【C.試行的事業】_1.実態調査

概要

- 調査対象者：16歳以上の市民から無作為抽出した3,000人
- 調査方法：郵送により調査票を送付、郵送またはインターネット回答による回収
- 調査期間：令和6年12月9日（月）～令和6年12月27日（金）
- 設問数：孤独や孤立に関する事項、年齢、性別等の属性事項等31問

工夫点

- 若年層はインターネット解答のみ、40歳以上は、郵送・インターネットから回答方法を選択するようにするなど、年齢によって調査方法を変更した。
- 福山市独自の設問として、交流館に関する設問を設計し、交流館を今後の孤独・孤立政策で活かしていくためのヒントを得た。

ねらい

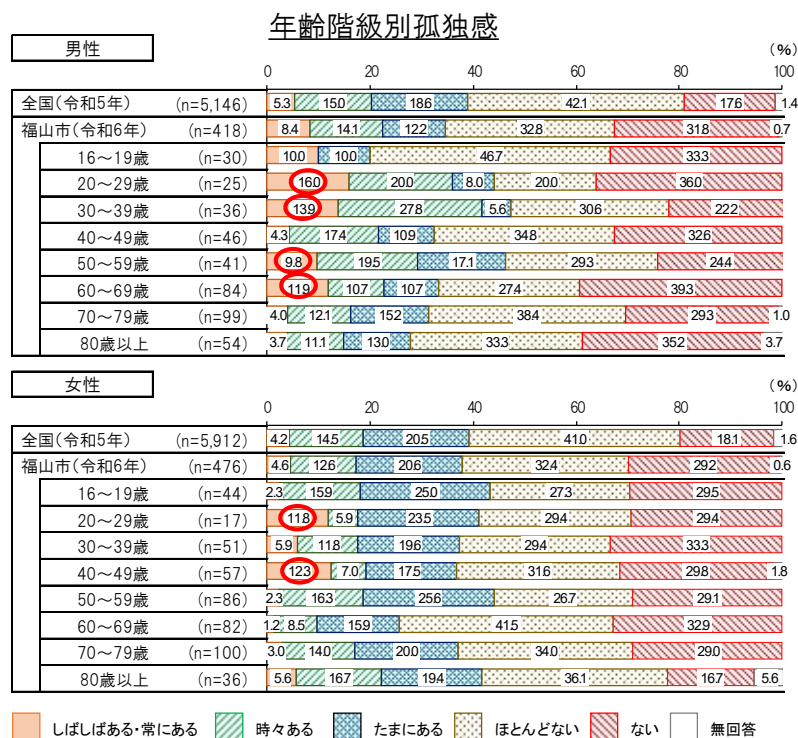
- 福山市における孤独・孤立の実態を把握し、これに関連する施策を実施している関係課において、対策を検討する上での基礎資料を得ること

結果

- 有効回答905件（回収率：30.2%）
- 福山市では、20～40歳代の孤独感が高く表れている。
- 4割弱の人が交流館の利用経験あり。

年代別孤独・孤立の実態

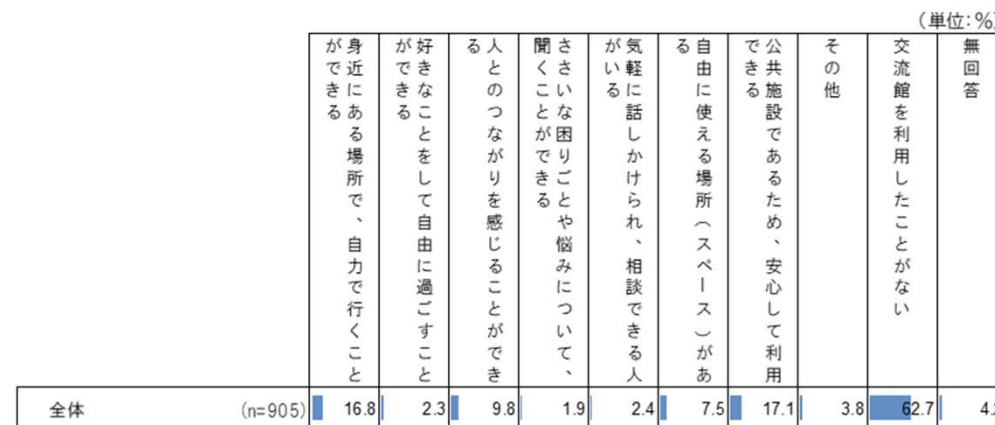
- 孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、男女・年齢階級別にみると、男性では20歳代*から30歳代及び50歳代から60歳代、女性では20歳代*及び40歳代で高い。
*N=30以下のため、参考値



交流館の存在意義

- 交流館の利用経験のある人の中で、交流館を「安心して利用できる場所」「身近にある場所」ととらえる人の割合が高い。
- 別の設問で、「交流館の存在を知らなかった」という人はわずか1割程度であり、福山市民にとって交流館の認知度は高いことが判明した。

交流館がどのような存在であるか



【C.試行的事業】_2.つながりサポーター養成講座

概要

- 職員、中学生の2種類の対象に対して、それぞれつながりサポーター養成講座を実施した。
- 受講者には講座受講後にアンケートを実施し、孤独・孤立への関心の高まりや、今後の意向（サポートの実施、講座内容の他の方への推奨）について把握した。

工夫点

- つながりサポーター養成講座のテキスト「地域活動を知ろう」のパートに交流館の存在を記載する等、福山市ならではの特徴を踏まえたアレンジを加えた。
- 中学生向け講座では、動画や振り返りシートをアドオンするなど、中学生でも理解しやすいような形式・内容を心掛けた。

ねらい

- 声を上げやすい、かけやすい社会の構築に向けて、孤独・孤立の問題について知識を身につけ、身の回りの人に関心をもち、できる範囲で困っている人をサポートする人材の育成

結果

- 養成講座への参加人数：福山市役所職員等45名、福山市立城北中学校生徒222名
- 職員向けアンケートにて、「今回の講座の内容を、他の職員や業務でかわりのある方にも共有しようと思う」と回答した人が98%。

つながりサポーター養成講座概要

<職員向け講座>

- 日時：令和7年1月27日（月）14:00-16:00
- 場所：まなびの館ローズコム4階 中会議室
- 講師：特定非営利活動法人 新公益連盟 井澤徹氏
- 参加者：45名

<中学生向け講座>

- 日時：令和7年2月25日（火）13:35-15:25
- 場所：福山市立城北中学校
- 講師：内閣府 孤独・孤立対策推進室 参与 認定NPO法人 自立生活サポートセンター もやい 理事長 大西連氏
- 参加者：1年生222名

▼使用したテキスト

（福山市から受講者へのメッセージ）

最後に

改めて、大事な点は「一人でもいい、つながってもいい」ということです。孤独であること、孤立していることは決して悪いことではありません。問題なのは、悩みや困りごとが生じた際に一人で抱え込んでしまうことで、複雑化・深刻化してしまうことです。

福山市では、孤独・孤立対策への取組として、「ふくま孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム」設置に向けた準備を進めております。

民間団体等と、日常的に社会課題を共有し、資源を持ち寄り、予防的なアプローチや持続可能な地域づくりにつながるような取組が生まれる包摂的な連携・協働をめざしています。

こうした取組を進めていくことで、誰もが困ったときに気軽に声を上げられる社会、相互に支え合い人と人の「つながり」が生まれる社会に近づいていくと考えています。

この講座にご参加いただいたみなさんと、ぜひ引き続き一緒に取り組んでいけると嬉しいです。

▼職員向け講座の様子

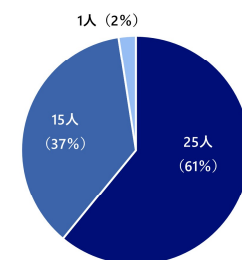


アンケート結果

- 職員向け講座は、行政職員の他に、社会福祉協議会職員、民生委員・児童委員、交流館主事が受講した。受講者の中で、「普段の業務の中で具体的に悩み事や困りごとを抱えた方からの相談を受けつけている」人は7割以上であった。
- 「孤独・孤立の問題について興味・関心が高まった」と回答した人が92%、「今回の講座の内容を、他の職員や業務でかわりのある方にも共有しようと思う」と回答した人が98%など、受講者の意識変容や行動変容につながる結果となった。

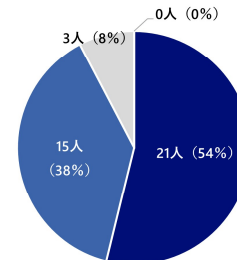
▼アンケート結果（一部）

質問14 今回の講座の内容を、他の職員や業務でかわりのある方にも共有しようと思いますか。（N=41）



■ とてもそう思う ■ まあそう思う ■ そう思わない

質問2 孤独・孤立の問題について興味・関心は高まりましたか？（N=39）



■ 非常に高まった ■ どちらかというが高まった ■ どちらかというが変わらない ■ 全く変わらない

工夫点

- ・ 参加者にひきこもり支援や学習支援等の支援団体を分かりやすく、知ってもらうために、口頭説明だけでなく、各団体のパネル（ブース）展示を行い、状況に応じて個別相談を実施した。

ねらい

- ・ 参加者96名（青少年育成員、民間団体等の支援者、自治体関係者、ひきこもり等の当事者やご家族）
- ・ アンケートにて、「講演内容が参考になった」「支援団体活動紹介が参考になった」と回答する人が9割以上。

結果

当日の様子・広報に活用したポスター

[illegible]

不登校・ひきこもり講演会 & 支援団体活動紹介

【15:00】 青少年ボランティアネットワーク（PANA）代表 佐藤 隆雄氏 | 島根県青少年支援協議会代表 佐藤 隆雄氏 | 山口県青少年ボランティアネットワーク代表 佐藤 隆雄氏

子ども・若者の可能性を拓く関わりと支援の方法

～自立を促す人間的関わりとサポートのしくり～

講師 **和田 晋さん** （北山大学非常勤講師 広島県北山・高等学校（デザイナー））

【プロフィール・講演内容】

北山大学に在籍する元北山中学校に在籍し、広島県を会場とした経験があり、多くの若者の自立に関わりつつあった。その体験をもとに、不登校や引きこもり状態にある若者へ関わりあふれることによって一緒に生きていくことができる。

今回の講演会では、不登校や引きこもり事例を中心にその理解方法・関わり方を中心に紹介していただきます。

あふくや、マツダボランティアネットワーク協議会にて、今年度にも不登校・ニート等の子ども、若者の支援を行っている。講演で、自分たち自身も、不登校や引きこもりの経験、家族、親戚、友人、仲間、ボランティア等と関わりあふれる経験がある。不登校の子どもに寄り添って、支援しようとする経験があること、どういった関わり方に対するべきかについて。

参加無料

とき

2024 年
（令和6年）

11月23日(土・祝)

13:30～15:00
(開場 13:00)

ところ

福山市役所本庁舎 3階 大会議室

定員

先着 50 名 (要予約)

**お申込
方法**

11月15日（金）までに
右の申込みフォームへ
または 084-28-1297へ電話
※お申し込みの際は、お申し込みの
入場券を提出する必要があります。

※開場日はお申し込み不要、入場自由です。

**支援団体
活動紹介**

15:10～16:30 福山市役所本庁舎 3階 大会議室

※事前申込み不要・入場自由

あふくや、マツダボランティアネットワーク協議会、自分たちが関わりあふれて支援します。また、支援団体、ボランティア、企業、行政機関等と関わり、相談することができます。

福山市 若者・くらしの悩み相談課

TEL: 084-28-1297 FAX: 084-29-9121

（受付時間）月曜日～金曜日 8:30～17:15

E-mail: wakamono-kurashi@city.fukuyama.hiroshima.jp

[illegible]

アンケート結果（自由記述抜粋）

- ・ 不登校の当事者でした。人と人との関わりの中で、傾聴や共感をキーワードに、居場所づくりをしていくことが学びました。（民間団体等の支援者）
- ・ 目の前にいる人の声を大切にすることを改めて感じました。色眼鏡でみていることもあるので、気をつけたいと思いました。（自治体関係者）
- ・ 知らず知らずのうちに自分目線で分からせようという態度になっていたと思います。まずは、親が変わるという事を意識に刻みたいと思いました。（ひきこもり等のご家族）
- ・ 小中の不登校については市の援助が色々あるが、高校生の不登校、またその家族のサポートというところに対して、とても少ないと感じています。（ひきこもり等のご家族）

- ・ 様々な機関、団体があることがわかりました。地域での相談対応等に役立てたいと思います。（青少年育成員・中央青少年育成員）
- ・ 各関係機関の横のつながりがもっと密になればより良いなと思いました。（民間団体等の支援者）
- ・ 他の団体の方々がどのような活動をされているか知ることができて良かったです。支援団体同士の交流がもっと増え、横のつながりがより強化できればお互いに連携し、支援できることが増えていくだろうと感じました。（その他属性）
- ・ 市内にたくさんの支援団体があることを知りました。学校には親がいても頼れない、頼りたくない子どもがいます。学校にはスクールカウンセラーがいますが、それ以外の校外連絡は個人情報のあることもあり、なかなか難しいし、進めにくいです。行政の方で、学校とこれらの事業所を結びつけてくださると、教員の負担も軽減されると思います。（その他属性）

【D.PF構築プロセスにおける留意点】



【E.ブレイクスルー要因】「交流館」という福山市ならではの居場所が、孤独・孤立という社会課題を解くために重要な役割を果たすことを再認識した点

令和6年8月

令和6年10月～11月

令和6年12月以降

取り組み課題

- 昨年度も様々な取組を試行的事業として実施したため、今年度は昨年度の取組を活かしてどのように設計すればよいか迷った。
- 福山市ならではの連携PFの絵姿が描けていなかった。
- 孤独・孤立という社会課題の認識不足により、既に各自が取組んでいることが孤独・孤立対策という考えに結び付けて捉えきれずにいた。
- 福祉関係の団体以外のつながりが希薄化していた。

その後の変化

- 内閣府主体の「つながりサポーター養成講座」の実施自治体に応募し、職員向け・中学生向けの2種類の講座を企画・運営した。
- 交流館を起点にした相談の流れ等、福山市の特性を活かした連携PFの絵姿を描くことができた。
- ネコサポなど、従来の福祉の枠組みを超えた団体等との連携への意欲が高まり、3団体にヒアリングをして意見交換を行った。

アクション／ブレイクスルー要因

- 二つの地区（市街地・中山間地域）の交流館へヒアリングを実施し、福山市民にとっては当たり前の存在である交流館が、他の自治体には存在しない（または機能していない）ことや、交流館が福山市の孤独・孤立を解決するために重要な役割を果たすことを改めて認識した。
- 意識していないだけで、普段から孤独・孤立対策に資する取組を行っていることが認識できた。